

# 愛知大学東亜同文書院大学記念センター・

## 大学史資料展示室 開設式典

■日 時：一九九八年五月九日(土)

午後二時～午後三時三〇分

■場 所：記念会館 三階 小講堂

■受 付：記念会館 一階 ロビー

### 〈オープensemレモニー〉

一四：〇〇～ 開 会

東亜同文書院記念センター運営委員長 今泉潤太郎

一四：〇二～ 開式の辞

愛知大学理事長・学長 石 井 吉 也

一四：一〇～ 来賓祝辞

・霞山会会長 近衛通隆氏

・渥友会会長 春名和雄氏

・豊橋市長 早川 勝氏

一四：三〇～一五：三〇 テープカット(大学記念館前)

中国獅子舞公演(株式会社スタンバイ 提供)

展示室見学ティーパーティー

### ★司会者 山下委員

ただいまより東亜同文書院記念センター・大学史資料展示室の開設披露を進めさせていただきます。

司会をとめます同文書院記念センター運営委員の山下と申します。どうぞよろしく願います。

### ★今泉委員長 開会の辞

本日は同文書院記念センター・大学史展示室開設式典に豊橋、名古屋はもとより、東京、大阪をはじめ、遠く九州、東北からもご参列をいただきまことにありがとうございます。これより展示室開設式典をはじめさせていただきます。

### ★石井学長 挨拶

東亜同文書院大学記念センター・大学史資料展示室開設の式典にあたり、一言ご挨拶申しあげます。本日は本学創立者の本間喜一先生のご命日でもございます。このご命日に国際コミュニケーション学部の開設記念式典と東亜同文書院記念センター展示室の開設記念式典をおこなうことになりました。これも何かのご縁だと考える次第です。

展示室の建物は旧本館といっておりましたが、この度大学が、「大学記念館」という名称に改めました。五〇周年記念事業として修理復元をおこなうことを決定し、これまで作業を進めてきました。昨春秋、これが完成し、文化財の指定も受けました。したがって、以前から考えてまいりました東亜同文書院大学記念センターの展示室をぜひ持ちたいと、関係者がいろいろと苦勞なさって今日に至ったわけであります。

私共としては、一九〇一年創立以来の東亜同文書院の歴史と、創立五〇周年を迎えた愛知大学の歴史が資料室という形をとおして一本の太い線につながったという思いでございます。

これから展示室をつかいました愛知大学学生だけでなく多くの方々にこの歴史と伝統を伝えていく必要があると考えております。

思いおこしますと、一九九二年、学長に就任以来、同文書院記念センターのことを霞山会と滬友会の関係者の方々と協議をつけ、記念センターという組織をつくりました。その主旨は東亜同文書院大学の教育、研究上の業績をわれわれの手であきらかにし、後世に伝えることであります。

端的に申しあげますと、本間先生、小岩井先生、鈴木擇郎先生たち、書院ゆかりの先生がたから直接教えを受けた卒業生の皆さんがたくさんおみえになります。しかし、大学に残っている者といえますと、私たちが最後の者であります。したがって私たちが大学を去ったあとは、おそらく

そういったことはできないだろう。我々の手で同文書院のすぐれた業績を後世に伝えていく義務があるということを出発しました。

記念センターを設置いたしますと幸いなことにマスコミ関係始め社会的に大変な反響がありました。それだけ東亜同文書院大学とはすばらしい大学であった、五〇年たってもいまだにそういった反響が出る大学であったという思いを強く感じました。この記念センターの事業は資料を展示するということを主な目的にしましたが、建物の関係でだいぶ遅くなりました。

しかしこの間、愛知大学は現代中国学部の開設を実現させました。別の角度からみますと、これはまさに東亜同文書院の精神もしくはその教育目標を二一世紀にむけて、我々の手で再構築したといっても過言ではありません。

現代中国学部は開設以来、全国から学生諸君が集まってきております。二年目をむかえましたが、二一世紀の日中交流の架け橋となるという意気込みで教員も学生も一生懸命にやっている状況を報告させていただきます。

さて展示室ですが、同文書院記念センター展示室と愛知大学史資料展示室と二つを記念館の中に設けましたが、内容についてはまだまだ足りないところがあるかと思えます。その点につきましては皆様のご意見をうけたまわりながら充実させていく必要があると考えております。この機会にぜひそういったご意見、ご協力をお願い申しあげる次第であります。

今日は遠いところから書院の大先輩が多数やって来られました。どうかこれを機に同文書院記念センターの方に気軽に足をおはこびいただきたいと存じます。また本学の卒業生の皆さんも全国からおいでいただきました。我々の前身東亜同文書院から愛知大学への一〇〇年にわたる歴史を、皆さんの手で世間に知らせていただきたいと思います。また学外の皆さんにはぜひ愛知大学をご理解いただき、これからご支援いただきたいということをお願い申しあげましてご挨拶いたします。

ご清聴どうもありがとうございました。(拍手)

## ★近衛霞山会会長 祝辞

本日ここに東亜同文書院大学記念センター展示室が、山緒ある愛大旧本館の改修をまわって開設されることになりましたことは、関係者の一人としてまことに喜びにたえず、心からお祝いを申しあげるところでございます。

かえりみますれば昭和二〇年、我が国の敗戦により東亜同文書院は、その半世紀にわたるかがやかしい歴史に幕をとじたのでございますが、関係者の同文書院に対する愛着の念もだしがたきものがあり、それが本間先生を中心とする諸先生方のご努力により、敗戦の翌年、ここ豊橋の地に同文書院の伝統と精神を継承すべく愛知大学が創立されました。この旧本館はその時から愛大のシンボリックな存在でございました。

愛大には東亜同文書院が残した日中友好や中国研究につ

いての多くの業績が保存されております。愛大図書館には学術上現在でも評価の高い中国大旅行調査報告書その他の文献、東亜同文会の事業報告書や機関誌『文那』、貴重な霞山文庫等が保管されております。

東亜同文書院の経営母体であった東亜同文会が創立されたのは今からちょうど一〇〇年前の一八九八年でございます。その当時、清国は西欧の列強に干渉され国家累卵の危機にございました。よって東亜同文会は中国を保全すること、中国を助成することを創立の目的としてその綱領の第一に掲げました。したがって当初東亜同文会は対中国政治活動を活発化し、康有为等の清朝改革者、孫文等の中国革命関係者ときわめて密接な関係がございました。この記念センターに寄贈されている孫文・山田関係資料はその貴重な歴史をあきらかにするものでございます。

しかし東亜同文会はその後政治活動を離れ、日中子弟教育のための諸学校すなわち東京同文書院、東亜同文書院、中日学院、江漢中学等の経営、中国の学術的調査・研究・出版等、もっぱら教育文化活動に事業の中心をおくことになりました。

愛大で出版され名声を博している『中日大辞典』も、東亜同文書院ではじめられた原稿資料カードをひきついでものであります。愛大現代中国学部の開設はまさに東亜同文書院の再現ともいえるものであり、今後の日中関係をになう有為な人材を輩出することを願ってやみません。また東亜同文書院の残した教育上、学術上の業績と歴史的役割

を、このセンターの存在によって今後広く多くの人々に知られることを願ってやみません。

最後に、この展示センターの開設のために長年ご尽力いただいた石井学長、委員各氏はじめ関係者の皆様に深甚な敬意を表し、心から感謝を申しあげる次第でございます。

(拍手)

## ★春名滬友会会長 祝辞

春名でございます。式次第には祝辞と書いてありますけれど、私が申しあげる祝辞というのは、旧本館が完成して大学記念館ができ、その中に大学史の展示室ができたということは、私は心からお祝いを申し上げたいと思います。が、同文書院記念センターについては、私は心からお礼を申し上げたいというような気持ちでございます。

ご承知の通り、同文書院、我々の学校は終戦とともに消えたわけでございます。戦後すぐには我々自身も、あるいはスパイ養成学校だったとか、あるいは軍の手足になった学生を養成したところだとか、あらゆるいろいろな批判を受けたわけでございます。同窓生一同、非常に肩身の狭い、残念な思いをしておったわけでございます。世の中には、あれは幻の名門校とか書いてくれるところもございましたが、やはり同文書院、自分の母校がなくなったということと同窓生一同、悶々としておったところでございます。そこへ愛知大学がその設立の経緯もあり、我々の同文書院の歴史を継いでやろうと、こういう、非常に我々にとっては

生き甲斐というか勇気を与えてくれることになったのでございます。はっきり申しあげて、同窓のなかには何も愛知大学に持つていかんでもいいじゃないか、幻の学校だと自分達の胸の中にそれを収めて、一生を終えてもいいじゃないかというようなこともあります。しかし同窓一同だんだん年をとっていくなら、やはり誰か後を継いで、我々の夢を実現してくれる人がいればそんなありがたいことはないというようなことで、みなで愛知大学に是非というような気持ちになったわけでございます。

ただ今、近衛さんからお話がありました。霞山会もいっしよに今日のような形にできあがったわけでございます。

私たちといましては、何としても学長先生をはじめ関係者の方々に、心からお礼を申し上げたいというふうに思うわけでございます。本日は同窓の方々も何人も来ておられますが、ひとつ、ここで皆さん立っていただいて、私が学長先生をはじめ皆様に御礼を申し上げたいと思いますので、お願いします。(拍手)

どうもほんとうにありがとうございました。(拍手)

## ★早川勝豊橋市長 祝辞

ご紹介いただきました豊橋市長の早川勝でございます。

この会場にご参会の皆様方の、今お立ちになられた方は東亜同文書院で、私は大学の卒業生なんですけれども、私は少数派だなというふうに思ったわけでございます。

改めてお祝いを申し上げますとともに、市長として感謝

を申し上げたいと思っております。この東亜同文書院の文献、資料等を集められて、愛大の中に作っていただいたということは豊橋市にとりましても、史的な、歴史的な一つの資産をつくっていただいたなと思って心から感謝を申し上げます。そしてまたそういった意味で、東亜同文書院の先輩の皆さん方が歴史を新しくして、豊橋市に場所があるんだと、その地があるんだなと思っただいて、ぜひ機会あることに豊橋に寄っていただければ何よりだと思っております。

東亜同文書院の精神というのは私なりに解しますと、とにかく隣の国・人と交流を深めること、そして絶えず国際性をもった思考と行動をすでに一〇〇年前から、やがて一〇〇年を迎えるわけでございますけれど、そういった時代の中でつくられたと、そこに精神があるのではないかなと思っております。いささかでも市の行政の中へその精神をくみこんでいきたいなと思って心がけている次第でございますが、ぜひ全国に、豊橋に大変なセンターができたんだということと同時に広めていただければと、あつかましいお願いでございますがお願いをし、ご期待申し上げますと思っております。

重ねて皆さん方の今日までの、石井学長を含めまして大変多くの方がご尽力をいただいたことに敬意を表しまして、私の感謝とお祝いの挨拶にさせていただきます。ありがとうございます。（拍手）



愛知大学記念館